

INDEX

1 グローバル教養学部
の取り組みを紹介

学部・研究科のFD活動を紹介するシリーズの第7弾。

今回は、グローバル教養学部の取り組みをご紹介します。

2 第7回FD学生の声コン
クール授賞式を開催しま
した

2014年12月25日(木)に、第7回FD学生の声コンクール授賞式を行いましたので、その模様を報告します。

授賞式後に例年行っている座談会は、2チームで行うアイデア合戦である「プレスト・バトル」を行いました。学生にとっても、教職員にとっても得ることの多かった座談会となりました。

発行:

法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ

<http://www.hoseiyoiku.jp/fd/>

問い合わせ先

fd-jimu@hosei.ac.jp

学部・研究科の取り組み掲載
のご要望、承ります。

1 グローバル教養学部の取り組みを紹介

学部・研究科のFD活動を紹介するシリーズの第7弾は、授業のすべてを英語で実施しているグローバル教養学部(GIS)をご紹介します。

The Department of Global and Interdisciplinary Studies (GIS) had recently conducted a faculty development seminar. The seminar was held by Assistant Professor, Shiw Jia Eyo on December 17th 2014 with the theme, "How to Engage Students through Learning a Difficult Subject." During the one-hour seminar, two actual case studies were presented and discussed. The key points for the seminar are as follow:-

In order to "engage" the students, the following teaching methods were suggested:-

1. Create a positive and "lively" environment for participation. Ask a simple question or construct a scenario.
2. Focus on examples and applications.
3. Present the definition, formulas and concepts after obtaining students' attention
4. Repeat the examples and applications to keep the students' interest and understanding
5. Use props or any objects to illustrate
6. Find a newspaper article or video related to the subject
7. Give challenging work (assignments) which calls for understanding.
8. Present opportunities for group work and group competition among students



In GIS, the faculty members are constantly encouraging their students to increase their psychological effort towards learning, understanding or mastering a new knowledge. This is further enhanced by providing a warm and friendly place for students to engage with their lecturers as well as with other GIS staff. The "Common Room" provides such an environment for the students to ask information, assistance with English-language materials and other GIS student-related matters.

GISは、2014年12月17日(水)に第3回FDセミナーを開催しました。GISでは毎年、教授会の前にFDセミナーを開催しています。若手の専任教員が教授法や授業運営の工夫などを紹介し、全員で意見交換を行っています。今年のFDセミナーのテーマは、「難しい課題を教える際にいかにして学生の興味を惹きつけるか」でした。Shiw Jia Eyo助教に、ご自分の経済と金融の授業から具体例をご紹介いただきました。当日は専任教員全員が参加し、活発に意見を述べ合うなどして、有意義な時間を過ごしました。

このFD推進センターNewsletterではセミナーでのキーポイント8項目と、GISの学部についての取り組みについてをご紹介します。

学生の興味を惹きつけるための工夫

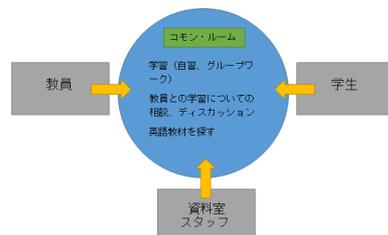
- 1 学生が積極的に参加したくなるような、**イキイキとした環境**を作る。簡単な質問をしたり、シナリオを提示して「自分ならどうするか」を考える。
- 2 **具体例や応用**に重点をおく。
- 3 学生の関心が高まったところで、抽象的な定義、方式、概念を紹介する。
- 4 学生の興味と理解度を維持するため、**具体例と応用**に結びつける。
- 5 説明の際には、小道具などを用意し、実際に関連のある**「モノ」を提示**する。
- 6 課題に関連した新聞記事やビデオを紹介する。
- 7 難易度がやや高い課題を出す。
- 8 グループワークでは、グループ間で競争させることでやる気を高める。

GISの取り組み

学生の学びを助けるために、GISでは**Common Room (コモン・ルーム)**を設けています。コモン・ルームは、学生が宿題やグループワークをするための専用スペースです。教員・資料室スタッフも出入りし、授業の質問や学習相談にも応じています。



▲GISコモンルーム
集う場所として多くの学生に利用されている。PC等の持ち込みをして学習する学生も多い。書籍の他にも、自由に使えるホワイト・ボードが設置されており、グループワークに活用されている。



2 第7回FD学生の声コンクール授賞式を開催しました

2014年12月25日（木）に、市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー25階A会議室にて、第7回FD学生の声コンクール授賞式を開催しました。

例年、授業内容や授業の工夫、学生同士の取り組みなどを「散文（エッセーや笑い話など）」「韻文（詩、短歌、川柳など）」「漫画」の3形式で作品を募集しています。寄せられた作品は、「学生の声」として、本学のFD活動に生かされています。

今年度は、『後輩に伝えたい！大学で学ぶ楽しさ』をテーマに作品を募集し、応募総数66作品の中から、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、佳作10作品、特別賞1名が選ばれました。

授賞式では、最優秀賞・優秀賞の方には、田中優子総長より賞状が授与され、最優秀賞の判治有香里さん（文学部・2年）によるスピーチが行われました。



次に、佳作賞・特別賞の方には、児美川孝一郎FD推進センター長より賞状が授与され、特別賞の清水えりなさん（生命科学部・3年）には、賞状と共に記念品も授与されました。本授賞式は、第10回デジタルコンテンツ・コンテスト授賞式および第1回学生が選ぶベストティーチャー賞授賞式と合同で開催され、華やかなものとなりました。第1回学生が選ぶベストティーチャー賞授賞式は、学生FDスタッフも壇上に上がり、受賞教員へひとりひとりに賞状を読み上げて授与するという一幕もありました。

祝賀会後は、第7回FD学生の声コンクール受賞者は会場を移し、『大学での学びを楽しくより充実したものとするために、教員・大学に望むこと』をテーマに、A・Bの2チームに分かれての、ブレイン・ストーミングバトル形式の座談会を行いました。これは、アイデアをブレイン・ストーミング形式で出しあい、チームごとその中から「勝てそう」なアイデアを5つ選び、Aチーム対Bチームの対戦形式でアイデアをぶつけ、審査員の投票により勝ち負けを決めます。最終的に、5回戦のうち「勝ち」の多かったチームの勝利となるものです。



Aチームは与えられた規定時間の大半を個々からのアイデア出しに割り当て、終盤に一気に整理・選定する方法を取り、一方のBチームは、最初に規定時間の配分を想定し、計画どおりに着々とアイデアを出してから分類をし、その後、どのアイデアを何番目に出すかの検討を行って臨むなど、規定時間の配分方法ひとつをとっても学生たちのカラーが出て、大変興味深いものとなりました。どちらのチームも限られた時間でいかに良いアイデアを出すか、ということに一生懸命取り組んでおり、初対面とは思えないほどのチーム連携のなかで、活発な意見交換が行われました。

学生が出したアイデアの一部をご紹介します。ふむふむ、と思えるどれも興味深い内容ばかりでした。詳細は、3月に発行する『FD学生の声コンクール2014新聞』で改めてご報告します。受賞学生の作品も掲載しますので、是非ご覧ください。

《学生が出した授業改善要望》

「教員・学生のコミュニケーションをもっと充実させる」（先生と意見交換の出来る場がもっとほしい、他学部とも交流したい）、**「社会とのつながり」**（今自分が学んでいることが、社会でどう関わり、役立つのかを織り交ぜて教えてほしい）、**「授業をより充実させてほしい」**（レポートの添削を丁寧に指導してほしい、授業時間の途中でも講義を切り上げてしまわずにめいっぱい講義をしてほしい）、**「ゼミ履修条件の改善」**（複数のゼミに入れるようにしてほしい、学部によってゼミに入れたり入れなかったりしている）、**「評価観点に基づくフィードバック」**（テストやレポートの点数結果だけでなく、今後の改善につなげられるようにテストやレポートのどこを評価しているかを知りたい、「成長シート」なども導入してほしい）、**「通教生の希望者にゼミを取り入れて欲しい」**（たとえ有料でも、ゼミがあると「学びたい」という意欲にさらに火が付き、さらに学ぶことが生きがいの通教生が増える）等。

